

学則の変更の趣旨等を記載した書類

I. 学則変更（収容定員変更）の内容

立命館大学（以下、「本学」という。）は、「自由と清新」を建学の精神として設立され、第二次世界大戦後に「平和と民主主義」を教学理念として定めている。さらに2006（平成18）年には学校法人立命館の理念として「立命館憲章」を制定した。これらに基づき本学では、学則に「建学の精神と教学理念にもとづき、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努め、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献することを目的とする」ことを定めている。

このたび本学では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2019（平成31）年4月よりグローバル教養学部（入学定員100人、収容定員400人。以下、「本学部」という。）を新設する。本学部の教育研究上の目的は、人文学および社会諸科学の教育研究、また日本およびオーストラリアを含むアジアの諸社会における様々なボーダーを超える経験と主体的な学びを通じて、人間社会の多様性への洞察と人類史をグローバルに俯瞰する視点を具え、高い倫理観のもとに、新しい科学・技術の発展を踏まえた未来社会への革新的な構想力と豊かな表現力をもって、グローバル化する社会のなかで実践的に問題発見・問題解決をリードし、そのために学び続けることのできる人材を育成することである。

本学は本学部の設置とあわせて既設の学部の入学定員および収容定員を変更する。本学部の入学定員および収容定員は、法学部法学科の入学定員（35人）および収容定員（140人）、経済学部経済学科の入学定員（35人）および収容定員（140人）、経営学部経営学科の入学定員（25人）および収容定員（100人）ならびに経営学部国際経営学科の入学定員（5人）および収容定員（20人）より振り替える。

収容定員変更の内容および内訳は下表のとおりである（下線部分に変更内容）。なお本学の収容定員の総数は変更しない。

<表 グローバル教養学部設置にともなう入学定員および収容定員の変更内容>

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部	法学科	<u>720 (△35)</u>	—	<u>2,880 (△140)</u>
経済学部	経済学科	<u>760 (△35)</u>	—	<u>3,040 (△140)</u>
経営学部	経営学科	<u>650 (△25)</u>	—	<u>2,600 (△100)</u>
	国際経営学科	<u>145 (△5)</u>	—	<u>580 (△20)</u>
	計	<u>795 (△30)</u>	—	<u>3,180 (△120)</u>
グローバル教養学部	グローバル教養学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>

II. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学では、教育研究や科学技術の動向を踏まえるなかで教育研究組織の設置や改組、教学改革を行い、豊かな人間性や国際性を備えた多様な人材の養成に努めてきた。さらに教育研究を基本

的な使命とする大学として意義を有する教学改革を不断に実行するために、大学の運営体制の充実・整備を行ってきた。こうした教育研究活動の展開に関する評価の一つは、大学全体や各学部に対する志願状況に表れている（資料1）。

高等教育機関の社会的な使命に立脚して、教育研究水準の維持・向上や教育研究環境の整備を図りつつ本学への進学を希望する多様な学生を受け入れ、社会に有為な学生を輩出することは、高等教育機関としての基本的な責務である。本学では、このような責務や要請に積極的に応えていくことが必要であると考え、このたび学則変更（収容定員変更）を申請することとした。

本学部を新設する趣旨および必要性は次のとおりである。

近年、ICT、AI やロボット技術、生命科学に関わる技術などが加速度的に進展し、Industry 4.0 や Society 5.0 などといったコンセプトと共に、日本にとどまらず地球規模で産業構造や社会構造の変革が謳われている。しかし、その結果到来する未来の有り様は、容易に予測できるものではない。またそれら技術の革新と相まって、世界がボーダーレスにつながることにより、従来想定しえなかったリスクが生じ、いわばリスクのグローバル化が顕在化しつつある。そのような時代の転換点にあっては、ローカルな視点のみならずグローバルな視点で、大きな構想力を志向する問題発見・問題解決型の人材が求められる。

また、こうしたグローバルな変化は、必ずしもグローバルに一樣に起こっているわけではない。今日のグローバル化の大きな推進力の一つはアジアの発展にあり、特に日本から見たとき、インド洋から太平洋を見渡す、広い意味でのアジアの文脈からこうした変化を捉えることが重要である。地域の具体的状況に根差しつつ、複数の文脈を横断する知的態度が求められる。

このように、グローバル化によってもたらされた激しい変化と不確定性のなかで求められる人材は、一つに時代に応じて適応し変化できるように自ら学びつづける能力を具えた人材である。加えて、地域性や独自性を踏まえながら、日本やアジアを含めたグローバルな舞台を意識した国際的な通用性を高度なレベルで有したうえで、課題の発見と解決を導いてゆくような能力を具えた人材である。

ヨーロッパに源流のある教養（リベラル・アーツ）の知は、近代世界における普遍的価値の形成に基盤的役割を果たしてきた。その美德や有効性を継承しつつ、グローバル化がもたらした新しい課題に応えるためには、教養（リベラル・アーツ）が前提としてきた世界認識や歴史認識を今日の社会的な文脈のなかで再定義し、異なる国・地域、性、世代、言語、宗教、価値観といった異文化との相互交流を通じて、自分とは異なるひとや社会、文化との共生・協働を可能にする普遍的な能力を養うものへと、その内容を動態化することが必要不可欠となる。

そこで、本学部では、①境界を越えて課題を発見して解決に導くための社会の多様性へ理解と洞察を涵養すること、②社会の変容を歴史的パースペクティブの中に位置づけて、深い次元で課題を発見する力を養うこと、③科学・技術へのリテラシーにもとづいた価値の創造を通じて具体的な課題解決を実現する力を育むこと、を三つの柱に置き、社会学、歴史学、経営学、科学・技術論といった人文学および社会諸科学の複数の学問分野にわたる学術的な教育・研究を軸として、グローバル化が進む時代のなかで必要となる新たな教養（リベラル・アーツ）を具えた人材を育成するものである。

このように、グローバル化が進む時代のなかで必要となる新たな教養としての「グローバル教

養学」の教育研究を展開する学部として、本学部は2019（平成31）年4月に新設される（入学定員100人、収容定員400人）。本学部が立地する本学大阪いばらきキャンパス（OIC）は、「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」という三つのコンセプトを掲げ、その具体化を図っている。キャンパスがある茨木市は、関西を代表する都市である京都と大阪の中間地点に位置している。京都は、日本を代表する文化都市として、その長い歴史のなかで培われた伝統や文化を尊重しながら、国内のみならず世界の名立たる文化都市との国際的な競争環境のなかで、その魅力を一層高めるといった課題に取り組んでいる。一方で大阪は、商都としての歴史や文化を有する西日本最大の都市として、とくにアジアとの交流の文脈で、その国際的な競争力や魅力を高める取り組みが進められている。このようにそれぞれ異なる長を有する都市にアクセスし易いというキャンパスの立地は、各都市に集積する多様な人材や組織とのつながりをもちやすい。地域の歴史的・地理的背景に根ざすキャンパスの開放性は、社会や地域とのネットワークのなかでその機能を高め、上述の人材育成を促進する環境や機能を備えている。

以上のような背景や設置に関する考え方にもとづき、本学部の人材育成目的を以下のように定める。

人文学および社会諸科学の教育研究、また日本およびオーストラリアを含むアジアの諸社会における様々なボーダーを超える経験と主体的な学びを通じて、人間社会の多様性への洞察と人類史をグローバルに俯瞰する視点を具え、高い倫理観のもとに、新しい科学・技術の発展を踏まえた未来社会への革新的な構想力と豊かな表現力をもって、グローバル化する社会のなかで実践的に問題発見・問題解決をリードし、そのために学び続けることのできる人間を育成する。

さらに本学部では、上記の人材育成目的を達成するため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下とする。

【ディプロマ・ポリシー】

人材育成目的を達成するために、卒業時において学生が身につけるべき能力を以下のように設定する。科目区分ごとの所定単位の修得と合計単位（124単位）の修得をもって、系統的な履修にもとづく人材育成目的の達成とみなし、学士（グローバル教養学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- 人間社会の多様性と人類の歴史の多系性について幅広い知識を身につけ、人文学および社会科学の方法論を用いて理解することができる。
- 特にアジアの諸社会を含む現代世界の多様性について経験的知識をもとに理解することができる。
- 現代における新しい科学・技術の社会的意義についての知識を身につけ、人文学および社会科学の諸基礎理論に立ち返って理解することができる。

2. 思考・判断

- 論理的および批判的な思考力を通じて自らの見解を形成することができる。
- 様々な社会的文脈において倫理的価値を評価し、倫理的な解釈の衝突においていかに異なる倫理的視座がとられうるかを考え、よりよい行動の選択肢を熟慮することができる。
- 多元的な視点と知的な創造性をもって問題発見・解決を導くことができる。
- 利害や立場の対立を乗り越えて協力を促進するために戦略的に判断を行うことができる。

3. 関心・意欲・態度

- 高い志やチャレンジ精神を持ち、困難を果敢に乗り越える強い意志と責任感をもって市民として主体的に社会的課題に取り組むことができる。
- 異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる。
- 知と社会のあいだの関係について実践的に統合された認識と十分な倫理を具えて、研究に取り組むことができる。
- 問題解決にあたって必要なリーダーシップの感覚を具えて、協働して課題に取り組むことができる。

4. 技能・表現

- 読解、数量的リテラシー、および情報リテラシーなど、情報を適切に収集・分析するために必要な技法に広く習熟し、効果的に研究に活かすことができる。
- 自らの知的活動を効果的に表現するために必要なコミュニケーションの技法として、言語運用能力、デザイン能力、マルチメディア運用能力をもち、文書および口頭において効果的に研究成果を発信することができる。

Ⅲ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更（収容定員変更）とあわせて届出を行う本学部では、上記の人材育成目的（養成する人材像）および教育目標を達成するために、以下のとおり教育課程や教員組織の編成等や施設・設備の整備を行う。このことにより、教育研究水準の維持・向上を積極的に図っていくとするものである。

なお本学部設置によっても、既設学部等の教育課程等に変更はない。

1. 教育課程の変更内容

1. 1. 学部・学科等の特色

本学部は、オーストラリア国立大学との緊密な国際連携を通して、国際通用性の高い教育・研究を展開するとともに、これからの社会における要請や需要に応える教養教育を実践する。なかでも、以下のようなことが際立った特色として掲げられる。

(1) 全ての授業を英語で学ぶ（日本語科目を除く）

日本語科目を除くすべての授業を英語で開講することによって、教育・研究の国際的な通用性を担保する。また、授業における使用言語をすべて英語にすることで、学生の多様性がこれ

まで以上に広がる可能性が格段に高まり、世界中から学生が集まることで国際色あふれる教学環境が整うことになる。そのなかで学生は、英語による知識の習得と英語による知的生産の実践を繰り返すことによって、卒業後にグローバルな舞台で活躍するための準備が整う。

(2) オーストラリア国立大学 (ANU) との国際連携

オーストラリアは、国際レベルの教育の質保証に国を挙げて取り組んでいる国であり、また「アジアの世紀におけるオーストラリア白書」(2012 (平成 24) 年) やインド太平洋地域についての造詣を深めることを目的とした「新コロソゴ計画」に見られるように、アジア地域にフォーカスして政府主導の取り組みを進めている。オーストラリア国立大学は、このようなオーストラリアの高等教育機関のなかで唯一の国立大学であり、世界大学ランキングのなかでも上位にランクインし、国際的通用性の高い教育・研究を展開している。一方で本学は、長年にわたるグローバル化の取り組みを基盤としたうえで、「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」をテーマにスーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受け、国際通用性・開放性・交流性を高める取り組みを進めている。

国際的に定評があるオーストラリア国立大学と本学との国際連携は、本学がスーパーグローバル大学創成支援事業に掲げたテーマのもとでグローバル化の取り組みをさらに加速するにあたって、アジアを一つのキーワードとしつつ、具体的な連携を図るきっかけとなるものである。

(3) オーストラリア国立大学 (ANU) とのデュアル・ディグリー・プログラムで学ぶ

本学部として教育課程の完結性と体系性を確固たるものとしたうえで、オーストラリア国立大学とのあいだで、原則として本学部生全員を対象とするデュアル・ディグリー・プログラムを実施する。学生は、このプログラムで学ぶことによって、学修内容、学修様式、学生生活のすべてにわたって多元的でグローバルな学びを経験する。卒業時には、本学部の学士 (グローバル教養学) に加えて、オーストラリア国立大学から学士 (アジア太平洋学) も同時に取得する。オーストラリア国立大学での学びを通じて、学生はアジアや日本を異なった視点で捉える力を身につけ、グローバル化がさらに進むこれからの時代のなかで日本を越えて活躍できる経験を積むことができる。さらに、質保証の面でも世界的な評価も高いオーストラリアの大学と緊密に連携することによって、本学部の教育の内容や制度、質保証などの国際通用性を格段に高めることができる。

このプログラムを履修するにあたって学生は、一年次に相当する学びを終えた段階で、オーストラリア国立大学との協定にもとづく学力と語学力を有していなければならない。これらの基準を両方とも満たした学生は、つづく二年次も本学大阪いばらきキャンパスに居ながら、本学部とオーストラリア国立大学の授業を並行して履修する (オーストラリア国立大学が開設する授業科目の一部は、本学大阪いばらきキャンパスで開講する)。その後、4月入学生の場合は三年次から、また9月入学生の場合は二年次の後半から、オーストラリア国立大学 (キャンベラ) に留学し、先方大学で一年間学修する。その後日本に帰国し、本学部とオーストラリア国立大学の授業を再度並行して学修したのち、各大学が定める卒業要件を満たしたうえで卒業する。

(4) アクティブ・ラーニングの実践を通して学修の定着を促す

本学部の学修は、「I. 学則変更（収容定員変更）の内容」で示したとおり複数の学問分野にまたがるため、学び手である学生が各科目の学びの意義を主体的に捉えて履修を進めることが必要である。そこで本学部では、各科目の単位を基本的に四単位とし、学生はそれぞれの授業を学期中週2回受講する仕組みを整えたうえで、更にそれら週2回の授業のうち1回をチュートリアルと位置づける。チュートリアルでは、科目担当教員以外にもチューターやティーチング・アシスタント（TA）が指導を行うことで、各クラスの受講生規模をさらに細かなグループに分けることができる。それによって、講義内容を多角的な文脈におくと共に、学生の主体的な学びを引き出すことができるアクティブ・ラーニングが実質的に可能となる環境が整う。

(5) 学修支援を通じて学びを力強くサポートする

本学部における学修は、教養学（リベラル・アーツ）が本質的にもつ学際性に加えて、上述のようなデュアル・ディグリー・プログラムの実施を含めて、高度かつ複雑なものになる。そこで、学びの状況を踏まえたうえで、学生がカリキュラム全体を通じた長期的な学修計画の設計や変更を適切にできるようにするため、恒常的かつ機動的な学修支援体制を設ける。

この学修支援では、物理的な拠点として学修支援室を設けるとともに、その運営に携わる教職員体制を整備し、オーストラリア国立大学の教職員とも協働しながら、履修相談に応じる体制を構築する。

1. 2. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部名称

グローバル教養学部
College of Global Liberal Arts

(2) 学科名称

グローバル教養学科
Department of Global Liberal Arts

(3) 学位名称

学士（グローバル教養学）
Bachelor of Global Liberal Arts

学部名称、学科名称、学位名称は、「I. 学則変更（収容定員変更）の内容」を踏まえたうえで、グローバル化の進展によって不確実性が高まり、未来の予測が困難になりつつある地球的文脈において、従来の教養（リベラル・アーツ）を再定義し、社会的な要請に応えられる能力を涵養するという考え方にもとづき、上記とする。

また各英文名称も、上記の人材育成目的および教育研究分野に照らして定めており、人類の知の蓄積、知の見取図、社会の基盤を形成している学問を俯瞰する“Liberal Arts”と、それを現代的・国際的な文脈において再編・刷新するという意味を包括させるため“Global”とを

用いた。

1. 3. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の編成の体系性

本学部では、上記「I. 学則変更（収容定員変更）の内容」及び「1. 1. 学部・学科等の特色」を踏まえたうえで、以下のカリキュラム・ポリシーに則って教育課程を編成する。

【カリキュラム・ポリシー】

人材育成目的とディプロマ・ポリシーを実現するために、学部・学科の特色を具体化して、以下の五つの原則のもとに教育課程を編成する。

①グローバル化した世界にふさわしいリベラル・アーツの学びを総合的に学ぶ

本学部が提供するグローバル教養学の教育課程は、人文学および社会諸科学に根差した教養の涵養が、異なる国・地域、性、世代、言語、宗教、価値観などの「異文化」との相互交流を通じて、a) 自分と異なる人や社会、文化との共生・協働を可能とする寛容の美德をはぐくむ点で、リベラル・アーツの本質を引き継ぐものであると同時に、b) 従来のリベラル・アーツが前提としてきた世界認識や歴史認識を、より広く、より深い文脈で再審に付して、学ぶ者をオルタナティブな視点にひらきつつ、c) 新しい科学・技術の発展を含む諸学知と社会とのあいだの相互作用の洞察を通じて、現代社会の様々な課題に対して実践的・創造的に問題解決にあたらしめるものである。上記 a-c の力点は、特にカリキュラムの中核をなす、Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies の三つの科目群において具体化されており、三つの科目群すべてをバランスよく学ぶ卒業要件構造が設定されている。くわえて Capstone Studies の科目群において、それらの学びは実践的・応用的に総合される。

②問題発見・問題解決の土台となる論理的・批判的思考力、倫理的判断力、アカデミック・スキルを修得する

リベラル・アーツの学びは、プロフェッショナルな分野からアカデミックな分野まで広範な大学院教育に接続して、より専門的な問題発見・問題解決型の人材を育成する。特に Essentials of Global Liberal Arts の諸科目を通じて、論理的・批判的思考力、倫理的判断力を涵養するとともに、人文学および社会諸科学を中心に幅広く、段階的に研究技法・方法論を学び、最終的に Capstone Studies において、実践的・総合的にそうしたスキルを用いる能力を高める。

③多文化社会における協働の能力を高める

本学部は、日本、豪州、およびアジアの諸地域を中心に様々な文化的背景を持つ学生を受け入れ、すべての科目を英語で実施するとともに、正課から課外にわたってトータルに多文化的な学びのコミュニティを形成し、多文化協働の能力育成を行う。また、オーストラリア国立大学との提携により、人材育成目的に謳う「アジアの諸社会における様々なボ

ーダーを超える経験」を積み、「特にアジアの諸社会を含む現代世界の多様性について経験的知識をもとに理解することができる」という卒業時において学生が身につけるべき能力をより深く確かに実現させるカリキュラム構成を具える。

④創造性をもって主体的に課題を設定するとともに、研究成果を効果的に発信する能力を獲得する

本学部では、原則として全科目を四単科目（90分×2回/週×15週）の開講とし、反転学習型のセミナー科目と講義とチュートリアルを組み合わせる科目を基本形態とし、セミナーやチュートリアルの上限を（科目によって）25-30人程度に制限して、少人数・アクティブ・ラーニング型の学びを追求する。また準専従で学修支援を担当する助教を三人配置し、学修ポートフォリオをはじめ、学習者が自らの成長を確認し、自ら学びの目標を定めて学びやすい工夫を調べるとともに、Capstone Studiesを頂点として、学びの各段階に、情報発信力を育成する機会（PBL型授業の展開やプロジェクト型の正課外活動機会の提供）を多様に設ける。

⑤世界／アジアのなかの日本で学ぶことの意義を追求する

グローバル教養学部では、四年間の学びのうち少なくとも二年ないし三年を日本で学ぶ。国際学生に日本語の学習機会を提供するだけでなく、グローバル教養学の枠組みのなかに日本研究関連科目を展開して、グローバルな文脈において日本の歴史、文化および社会について理解を深め、日本出身の学生、国際学生それぞれの立場において、日本から、あるいは日本を経由して、世界へ発信する力を支える教養を身につけるとともに、キャリア形成の資産として日本での学びの経験が生きるカリキュラムを追求する。また「アジアのゲートウェイ」をキャンパス・コンセプトとする本学大阪いばらきキャンパスの立地と優れた設備を上記の目的に活かす。

（２） 科目区分の設定

本学部の科目は、上記カリキュラム・ポリシーにもとづき、Essentials of Global Liberal Arts, Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies, Japanese Studies Cluster, Languages, Capstone Studiesの七つの科目群から構成され、それぞれの科目群の具体的な内容は下記に示すとおりである。また、履修系統は、グローバル教養学の基盤的な学びを提供するEssentials of Global Liberal Artsの科目群、その上にグローバル教養学の柱となる学びを構成するCosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studiesの三つの科目群、その上に実践的・応用的に学びを完成させるCapstone Studiesの科目群とつづく流れを中心とする。加えて、Japanese Studies Clusterの科目群およびLanguagesの科目群が、それぞれコアの学びを構成するCosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studiesの三つの科目群、基盤的な学びを提供するEssentials of Global Liberal Artsの科目群を補完する科目群に位置づけられる。なお、学生は、科目番号（ナンバリング）を通して科目の体系性を示される。

① Essentials of Global Liberal Arts

人類の知的遺産をグローバルな現代的視点から俯瞰し、あわせてグローバル教養学を学ぶ上で基礎となる人文学および社会科学の基礎知識、基本技法・方法論、研究倫理およびアカデミックなコミュニケーションの基礎を学ぶ。そのため、大半の科目を一年次に配当したうえで、とくにコアとなる四科目として、「Introduction to Global Liberal Arts I」、「Introduction to Global Liberal Arts II」、「Statistics」及び「Research Design and Research Method」を一年次の必修科目として位置づける。

② Cosmopolitan Studies

文化研究および地域研究を軸に、人間社会の多様性への理解を深め、さまざまな境界を越えて問題発見・問題解決を構想する能力を涵養する。そのため、履修上コアとなる科目である「Cultural Studies」を一年次の必修科目と位置づけたうえで、社会の多様性を理解するとともに、社会を理解する視座の多様性を習得できる科目を二年次以降に配している。

③ Civilization Studies

歴史研究および社会理論を軸に、グローバル・コミュニティの多元性と普遍性のダイナミズムに対する理解を深め、人類にとって新しい課題を可視化する概念的能力を涵養する。したがって、「Civilization in Global History」をコアとなる科目に位置づけて一年次の必修科目として、二年次以降では社会や歴史を理論的に学修する科目を揃えている。

④ Innovation Studies

経営理論および科学・技術論を軸に、理論と現場を往還・架橋して、新しい価値の創造と実現を可能にする実践的知性を涵養する。一年次必修のコアとなる科目「Knowledge and Innovation」をベースに、二年次以降では、グローバル化が進む現実社会と理論を関連させながら学ぶ科目に加え、本学部の学びを実際の社会経験のなかで生かす「Internship I」及び「Internship II」を配置している。

⑤ Japanese Studies Cluster

グローバルな文脈のなかで、日本の歴史、社会および文化の特質を学び、コアの学びを構成する三つの科目群（上述の Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies）の学びを世界／アジアのなかの日本という具体的な場において深める。つまり、この科目群の学びは、上述の三つの科目群に Essentials of Global Liberal Arts を加えた四つの科目群それぞれの基礎を学修したうえでこそ生きてくるため、配当年次は二年次以降としている。

⑥ Languages

母語以外の言語の学習をとおして、異文化や多様性への理解を深めるとともに、他の科目群の学修における視座を広げる。そこで、日本で学ぶ意義を早期から意味づけるために、留学生を対象とした日本語学習科目「Japanese Language」I から IV の四科目を一年次当初から配当するが、そのほかの科目は、これまで述べた本学部履修上のコアとなる科目の学修を終えてからの履修を想定している。

⑦ Capstone Studies

各科目群での学びを横断して応用的な学びへと発展させ、特にアジア太平洋地域の政治的、経済的、社会的、文化的文脈において、より実践的な場でグローバル教養学の学びを生かす

能力を涵養する。歴史学や社会学、社会理論の文脈に重点をおいたカリキュラムに沿った履修を経たうえで、グローバル教養学が持つ学際性も生かしつつ、コアとなる三つの科目群 (Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies) に即した三つのクラスを編成し、学生は一つのクラスを選択する。各クラスは、当該科目群の専任教員が共同で担当するコロキウム形式の授業で横断的な指摘や刺激を受けながら、自身のテーマに即した専任教員が卒業論文を視野にいれた実践的な指導を担う。それまでの学修の到達点と位置づけられるため、卒業論文と併せて、必修科目としている。

(3) 入学時期ごとの対応

本学部では、世界中から積極的に留学生を受け入れるため、入学時期を4月と9月それぞれに設け、入学時期ごとの入学者数はそれぞれ50人ずつを想定している。

入学時期ごとの履修の体系性は、主に上述の科目区分間の関係と各科目の配当年次によって担保されている。上述「(2) 科目区分の設定」で示したように、グローバル教養学を学ぶ上では、基礎となる Essentials of Global Liberal Arts のうえに、三つの科目区分 (Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies) を位置づけており、さらにそれぞれの科目区分のなかに必修科目であるコアとなる科目を配している。配当年次が同一の科目間での履修系統の前後は体系的な履修の妨げにならない構成となっている。また、本学部の人材育成目的に照らし合わせても、また上述の「1. 1. 学部・学科等の特色」に示したようなアクティブ・ラーニングを推奨している観点からも、多様な学生が混ざりあって相互に刺激を与える環境が望ましい。そのため、すべての科目を入学時期ごとに設定するのではなく、従って入学時期ごとに個別の時間割を編成することはなく、科目の配当年次に留意して時間割を編成するものとする。なお、教員組織は後述「3. 教員組織編制の考え方及び特色」に記述するとおり、十分な教育体制を確保している。

2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

(1) 教育方法

本学部では、週二回授業の形態を原則としたうえで、これら週二回の授業は、事前課題を踏まえた講義とチュートリアルを組み合わせを基本とする。チュートリアルでは、科目担当教員以外にもチューターやティーチング・アシスタント (TA) が指導を行うことで、各クラスの受講生規模をさらに細かなグループに分けることができる。たとえば、講義やチュートリアルを組み合わせる場合、受講生は、一堂に会して講義に参加する一方で、複数グループに分かれたチュートリアルでは少人数制のもとで一層インタラクティブな学修を進める。このように、講義内容を多角的な文脈に置くとともに、学生の主体的な学びを引き出すことができるアクティブ・ラーニングが実質的に可能となる環境を整える。ただし、ディプロマ・ポリシーに示した卒業時において学生が身につけるべき能力は、グローバル教養学のカリキュラムを学び手である学生が主体的に捉えて履修を進めることが特に重要である。そのため、事前課題を踏まえた講義とチュートリアルという組み合わせに限定せず、そのほかにもワークショップやPBLを組み込んだ授業、反転学習を活用したセミナー形式の授業、ICTを活用した授業など、科目の趣旨に応じた多様な教育方法により、アクティブ・ラーニングの形態をさらに追求する。

(2) 履修指導方法

前述の「教育方法」で示したいずれの授業形態をとる場合も、授業前後の学習時間を実質化し、本学部教育の質を保証するという観点から、本学部においては、以下のような学修支援体制を構築し、四年間の学生の学びをトータルに支える。

まず、学修に何らかの困難を覚えた学生が相談に赴ける窓口として、また四年間の学生の学びをトータルにサポートするため、物理的な環境を含めた学修支援室を設置する。この学修支援室では、学生は事前予約などを通じて専任教員の指導を受けられるほか、科目ごとの困難を越えて、履修中の科目を横断した学修の相談や、履修計画の変更の相談をすることができる。

また、学部全体として組織的な学修支援を継続的に運用するため、学生の学びおよび学修相談の経過を記録するオンラインの学修ポートフォリオ／学修相談カルテを導入する。このポートフォリオは、支援にあたる教職員にとって有用となるだけでなく、学生にとっては、適宜学びの振り返りができる仕組みであり、履修計画の変更や自己省察ができるという利点がある。加えて、全学で既に導入している Learning Management System を用いることで、教室における授業時間のみならず、授業前後の自己学習を担保するための工夫が可能となる。本学部では、これらの仕組みを総合的に活用することによって、学びの質保証に資する履修指導を推進する（資料2、資料3）。

(3) 年間履修登録上限（CAP制）

卒業要件単位数を124単位としたうえで、年間登録上限40単位、学期中の登録上限20単位を全学年一律で導入する。この制限によって学生が学期中に履修できる科目数が抑えられ、1週間あたりの学修時間数を適正に保つことができる。その結果学生は、四年間をとおして計画的な履修を意識することにもなる。加えて、実質的な学修時間が担保されることから、教育の質保証にもつながるものである。

(4) 他大学における授業科目の履修

本学部の特長の一つとして、オーストラリア国立大学とのデュアル・ディグリー・プログラムがある。このプログラムは、各大学で修得した単位をもう一方の大学における学修に読み替えることで、四年間で2つの大学から学位を取得できるものである。

さらに、このデュアル・ディグリー・プログラムの送出しと受入れを双方向で実施することにより、本学から学修をはじめめる学生とオーストラリア国立大学から学修をはじめめる学生の相乗効果により、学生は日常的に多様性を実感しながら学修することになる。

両大学では、本学部の人材育成目的も踏まえたうえで、デュアル・ディグリー・プログラム全体の人材育成目的を以下のように設定し、協定により合意している。

Upon successful completion of the dual degree program in Global Liberal Arts and Asia-Pacific Regional Affairs, graduates will be able to:

- 1) Understand the unique value of employing concepts and methods from a global liberal arts perspective to explore the new challenges posed by a rapidly

changing transnational world.
2) Use a global liberal arts conceptual approach to understand the transnational forces and processes underlying the contemporary challenges in Asia-Pacific affairs
3) Identify and understand the main political, cultural, economic and diplomatic challenges impacting the Asia-pacific and their inter-connectedness.
4) Critically evaluate the various existing strategies aimed at promoting stable and just political communities through maintaining peace between states and managing conflicts within states.
5) Creatively develop innovative strategies to foster cooperation and address the potential social needs for sustainable societies at various levels.

プログラム全体に係るこの共通の人材育成目的は、オーストラリア国立大学で修得した単位を本学部が開設する科目に読み替える場合においても指針の一つとなるものであり、両大学の緊密な連携を具現化できる仕組みの一つとなっている。

(5) 「Thesis」(卒業論文)

学生は、自身の関心にもとづくテーマについて、主な指導教員から指導を受ける。そのなかで、学生同士の発表や討議を通じたピア・ラーニングを経験し、さらに同じ科目群を協働で指導するほかの教員の指導を通して、1年をかけて論文を執筆する。このような履修環境は、学生の学びとディシプリンを確固たるものにしつつ、また知的陶冶による学生の自律を促すものとして、四年間の学びのなかでも非常に重要な位置を占める。

(6) 卒業要件

本学部においては、上記「I. 学則変更(収容定員変更)の内容」で示したディプロマ・ポリシーにもとづき、履修の系統性を明示するために、上記「1. 3. (2) 科目区分の設定」を踏まえたうえで、科目区分ごとの所定単位数およびその内の必修単位数を以下のとおり設定する。

科目区分	卒業に必要な単位数	
Essentials of Global Liberal Arts	32 単位以上 (うち必修 16 単位)	124 単位以上
Cosmopolitan Studies	12 単位 (うち必修 4 単位)	
Civilization Studies	12 単位 (うち必修 4 単位)	
Innovation Studies	12 単位 (うち必修 4 単位)	
Japanese Studies Cluster	4 単位以上	
Languages	0 単位以上	
Capstone Studies	12 単位以上 (うち必修 12 単位)	

3. 教員組織の変更内容

本学部における教員編成の基本的な考え方は次のとおりであって、収容定員の変更に対応できる。

本学部では、上記「I. 学則変更（収容定員変更）の内容」で示した人材育成目的やディプロマ・ポリシーを具現化するため、カリキュラム・ポリシーを踏まえたうえで、本学部の教学及び研究の質の向上に資する教員組織を編成することを目指し、以下のような基本方針を立てて教員任用を行った。

- ① 専任教員は、既存組織からの移籍および新規任用人事により編成する。
- ② 専任教員組織は、職位、年齢構成のバランスを考慮し、性別等のダイバーシティに配慮する。
- ③ 任期制教員、助教など多様な雇用形態も含んだ教員組織整備を検討する。
- ④ 研究、教育、大学運営、社会貢献等において優れた能力を示している教員を、国籍を問わずに採用する。日本国外の大学における研究・教育経験は有益である。
- ⑤ 英語による講義・研究指導の高い能力と共に国際水準の研究業績を有していること、優れた教育実績を有していることを重視する。

そのうえで、履修上のコアとなる必修科目はすべて専任教員が担当し、さらに七つの科目群のなかでも柱となる Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies を中心に専任教員を配した。その結果、専任教員数は、本学の既設学部からの移籍教員 5 名、新規任用教員 13 名の計 18 名となる。なお、移籍教員のうち 1 名は学年進行中である本学国際関係学部アメリカン大学・立命館大学国際連携学科（2018（平成 30）年 4 月設置）からの移籍となるが、この人事は、学長や学部長等で構成する大学協議会の承認を得ており、教育研究上も支障はない。

これら 18 名の教員の構成は、年齢は 60 歳代が 2 名で約 11%、50 歳代が 7 名で約 39%、40 歳代が 7 名で約 39%、30 歳代が 2 名で約 11%（以上、完成年度となる平成 34 年度時点）、男女比は男性が 9 名で 50%、女性が 9 名で 50%、職位は教授が 6 名で約 33%、准教授が 9 名で約 50%、助教が 3 名で約 17%、国籍比は日本国籍保有者が 11 名で約 61%、それ以外が 7 名で 39%となっており、本学部が目指す教育・研究に相応しいダイバーシティの豊かさやバランスの良さが確保できている。なお、本学の専任教員の定年（資料 4）は教授 65 歳、准教授 60 歳であるが、完成年度終了までに定年あるいは任期満了を迎える教員はいない。

このような教員組織による研究領域は、歴史学や社会学をはじめとして、経営学、科学・技術論のほか、文化人類学、メディア学、芸術学、経済学、政治学、脳科学、デザイン学、情報学、哲学など幅広く、たとえば歴史学と情報学、社会学とデザイン学などのほかに、経済学と脳科学、メディア学と哲学、科学・技術論と芸術学など潜在的なシナジーが重層的に埋め込まれており、所属教員の有する幅広い専門性を関連づけながら研究活動に取り組む。ここにおいて、教員構成におけるバランスや豊かなダイバーシティは、本学部の研究面における潜在的・有機的関連の促進にも資するものとなっている。また、完成年度において、専任教員の博士号取得率は約 89%であり、十分な研究業績を有する教員体制となる。

また、本学部が置かれる本学大阪いばらきキャンパスには、研究機構として立命館アジア・日本研究機構が置かれており、デュアル・ディグリー・プログラムのパートナーであるオーストラ

リア国立大学のアジア太平洋学の学びを推進するメンバーとも連携しつつ、アジアをフィールドとする各種研究は特に推進される。

4. 大学全体の施設・設備の変更内容

(1) 校地、運動場の整備計画

本学部は、2015（平成 27）年 4 月に大阪府茨木市に開設した大阪いばらきキャンパスに設置する。このキャンパスは、JR 茨木駅の近隣に位置するとともに、阪急南茨木駅や大阪モノレール宇野辺駅へのアクセスも良好であるため、大阪府内、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県等が通学圏内となっている。

2018（平成 30）年 3 月現在、約 8.5 万平方メートルの敷地のなかに、経営学部、政策科学部、総合心理学部、経営学研究科、政策科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科（MOT）、経営管理研究科（MBA）が設置されている。2018（平成 30）年 4 月に人間科学研究科が新設されることにより、3 学部 5 研究科を擁するキャンパスとなる。キャンパス内の施設としては、学舎に加えて、図書館、保健センター、研究施設、市民開放施設（ホール等）、アリーナ、トレーニングジム、セミナーハウス、飲食施設などが整備されている。

また、施設・設備面に加えて、このキャンパスの三つのコンセプト「都市共創」、「地域・社会連携」、「アジアのゲートウェイ」は、本学部の人材育成目的にも大いに関連づけられるものであり、したがって、本学部にも所属する学生・教職員にとっても適切な環境がすでに整っているといえる。

(2) 校舎等施設の整備計画

キャンパスには、A 棟、B 棟、C 棟、D 棟の 4 つの校舎があり、A 棟には、複数規模の講義室、ゼミ用のセミナールーム、各種コモンズ、学部事務室、教員研究室など、B 棟には、市民も利用可能なホール、図書館研究所など、C 棟には教室、食堂、総合ショップ、セミナーハウスなど、D 棟にはアリーナ、トレーニングジム、学生課外活動用設備などがそれぞれ整備されている。本学部もこれらの施設をほかの学部・研究科同様に、全体で共有して使用することとなり、授業教室の利用に際しては毎年の調整会議を経て決定することになるものの、後述のように、授業教室など施設・設備カテゴリーごとの整備規模は、本学部を含むすべての学部・研究科の需要を十分にカバーしており、学部・研究科間の調整によってそれらの有効な利活用が促されることで、総合大学としての効果的な教学環境が実現される。

教学環境の中心となる 9 階建ての A 棟については、1～4 階と 6～9 階がすでに整備されて使用されている（ただし、6 階は総合心理学部の実験実習施設）。しかし一方で、収容定員が少ない本学部では、その教育の特色に鑑みると、実習や実験のための特別な施設・設備ではなく、少人数制のアクティブ・ラーニングを実質的に展開できる教室を確保することが求められる。そこで、本学部の開設に伴って 5 階を中心に新たな教学環境を整備すべく、2018（平成 30）年 2 月にすでに着工した。この整備の内容としては、本学部の規模に相応しい 100 名程度の授業に適した中教室を低層階に整備する一方で、5 階には、アクティブ・ラーニングの実施を目的とした教室、さらには学生が集うラウンジ機能（コモンズ）、前述の学修支援室や本学部の教員が使用する教員研究室を配置する予定である。この整備が完了すると、キャンパス全体として、

大教室（定員約 300～700 名）が 17 室、中教室（定員 100 名程度）5 室、ゼミ教室（定員 20～70 名程度）90 室、アクティブ・ラーニング教室 15 室、情報教室 8 室が揃うこととなる。これらの教室数は、既存の学部・研究科の教学展開に加えて、本学部の科目数を前提とした計算上、十分な規模であり、また時間割シミュレーション（資料 5）上の不都合も生じないことが想定されるため、本学部の教育展開において不足はないと考えられる。

他方、留学生を含めた学生の住環境をさらに充実させるため、2018（平成 30 年）3 月に開設した国際寮「OIC インターナショナルハウス」に加えて、2019（平成 31）年秋の開設を目指して、キャンパス内に新しい寮を建設する計画を進めている。この計画により、学生の大学生活を取り巻く教学環境と住環境の両方が一層豊かなものとなることを見込まれる。

（3）図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書および雑誌

本学には、図書館施設として、衣笠キャンパスに平井嘉一郎記念図書館、修学館リサーチライブラリー、人文系文献資料室、朱雀キャンパスに朱雀リサーチライブラリー、びわこ・くさつキャンパスにメディアセンター（自然科学系図書館）、メディアライブラリー（社会科学系図書館）、大阪いばらきキャンパスに OIC ライブラリーをそれぞれ設置している。これらの施設を含めた大学全体の蔵書は、2018（平成 30）年 1 月末現在で約 294 万 7 千冊（製本雑誌含む）に達し、これに加えて約 7 万 7 千タイトルの学術雑誌、そのうち約 6 万 7 千タイトルの電子ジャーナルを収集・整備している。これらはほぼすべて、学生の利用が可能である。また、図書館間の資料を取り寄せて利用する仕組みも存在しており、全ての資料を学習や研究に利用できる環境を整備している。

2018（平成 30）年 1 月現在、大学全体では本学部の教育に関する図書が 1,776,276 冊（うち外国書 502,024 冊）、雑誌が 24,120 タイトル（うち外国雑誌 20,881 タイトル、電子ジャーナルを含む）である。さらに、本学部として大阪いばらきキャンパスに必要な図書資料を新たに購入・整備する。新たに整備する際の選書・収集は、授業科目概要や教員の推薦等にもとづくとともに、総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、芸術、言語、文学の 8 分野を学ぶため洋書を中心に行い、完成年度には図書 1,777,416 冊（うち外国書 503,164 冊）を予定している。なお、本学部の学問は広範な領域を有するため、総合大学である本学の特性を活かして、今後継続的に他学部ならびに本学全体により収集される図書、雑誌（電子ジャーナルを含む）についても、本学部の学習や研究に大きく貢献されることが期待される。

（a）図書整備計画

分野	整備予定冊数
総記	120,542 冊
哲学	135,174 冊
歴史	236,674 冊
社会科学	795,267 冊
自然科学	157,656 冊

芸術	71, 195 冊
言語	57, 252 冊
文学	203, 656 冊
計	1, 777, 416 冊

(b) 既に整備され、今後も整備する主な学術雑誌

タイトル	ISSN
Sloan Management Review (MIT Sloan School of Management)	1532-9194
Business History (Liverpool University Press)	0007-6791
Technology & Culture (Wayne State University Press)	0040-165X
Journal of Design History (Oxford Univ. Press)	0952-4649
Strategic Management Journal (Wiley)	0143-2095
Critical Inquiry (U. Chicago Press)	0093-1896
Social Forces (U. of NC Press)	0037-7732
International Studies Review (Published by Blackwell publishers for the International Studies Association)	1521-9488
Journal of World History (U. of Hawaii Press)	1045-6007
Sociological Theory (Jersey-Bass)	0735-2751
Journal of Comparative Economics (Academic Press)	0147-5967
The Journal of Asian Studies (Far Eastern Association)	0021-9118

② オンラインデータベース、電子ジャーナル、電子書籍等

電子ジャーナルについては、キャンパス・ネットワークを介して大学全体で共有しており、人文科学、自然科学、社会科学の分野を問わず幅広い分野を対象に選定・収集している。特に、Elsevier、Wiley、Oxford University Press、Springer Nature、Cambridge University Press、Taylor & Francis の大手6社が刊行する電子ジャーナルについてはパッケージ契約をしており、最新の情報と共にバックナンバーの購読が継続的にできる環境がある。データベースについてはWeb of Science や Magazine Plus などの二次情報、EBSCO Host、ProQuest EBook Central などのアグリゲータ系電子ジャーナル、日経テレコン、聞蔵Ⅱビジュアルなどの新聞データベースを中心に、基本的なデータベース・ツールの提供を行い、全学で共有できる電子書籍も積極的に収集している。

③ 閲覧席、ラーニングコモンズ

本学の学術資料は、立命館学術情報システム (RUNNERS) を利用して、図書資料の所蔵情報、貸出返却・予約などが可能であり、一部図書資料については、抄録のオンラインでの閲覧も可能となっている。

OIC ライブラリーは、平井嘉一郎記念図書館等と同様に、年間開館日数 340 日前後、土・日曜日開館、開館時間は開講期平日 8 時 30 分～22 時 (土・日は 10 時～17 時) で運用し

ている。

OIC ライブラリーは収納可能冊数 80 万冊、総座席数約 1,100 席を有している。また、他の図書館同様、ラーニングcommons「ぴあら」を設置し、個人学習だけでなくグループ学習のできる環境も整備している。

④ 外部の図書館等との相互協力

他機関との協力に関わっては、Online Computer Library Center, Inc. (OCLC) や国立情報学研究所の NACSIS-CAT/ILL の図書館間ネットワーク等に参加するとともに、私立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 等の加盟館として、国内外を問わず他大学、他機関と図書館間相互協力 (文献複写や相互現物貸借) を推進している。

⑤ 検索手法の指導等

学部教員と図書館職員との協働で、大学図書館の基本的な使い方を初め、RUNNERS や電子ジャーナル、オンラインデータベースの検索・活用方法等について、各学部の教育に必要な内容を中心とした図書館リテラシー教育を展開している。そこでは、少人数クラスによる双方向授業の取り組みや、Web 視聴による講義等を実施し、RUNNERS の図書検索など内容の充実をはかっている。また、自学自習のために、Web ガイドや RAIL (Ritsumeikan Academic Information Literacy) などの、情報の収集、選択、活用の能力を高めるためのオンラインツールを提供している。

以上により、施設・設備において、収容定員の変更後でも、これまでと同等以上の教育研究を展開することができる。

以 上

【資料1】

資料1 立命館大学の志願者・合格者・入学者数の推移

学部名		2014年(平成26)年度	2015年(平成27)年度	2016年(平成28)年度	2017年(平成29)年度	2018年(平成30)年度
法学部	志願者	6,927	7,811	8,326	7,686	8,392
	合格者	3,625	3,512	3,357	2,890	2,694
	入学者(A)	1,014	903	832	750	718
	入学定員(B)	790	790	790	790	755
	A/B	1.28	1.14	1.05	0.94	0.95
経済学部	志願者	7,827	9,148	8,807	9,803	9,437
	合格者	3,850	3,827	3,854	3,608	2,626
	入学者(A)	855	752	847	873	673
	入学定員(B)	735	735	735	795	795
	A/B	1.16	1.02	1.15	1.09	0.84
経営学部	志願者	8,666	10,655	9,660	12,003	10,395
	合格者	3,007	2,886	2,887	2,562	1,899
	入学者(A)	873	834	854	859	677
	入学定員(B)	760	760	760	825	825
	A/B	1.14	1.09	1.12	1.04	0.82
産業社会学部	志願者	10,646	9,440	11,364	12,546	11,342
	合格者	2,857	2,904	2,814	2,675	2,332
	入学者(A)	969	946	943	962	847
	入学定員(B)	900	900	900	900	810
	A/B	1.07	1.05	1.04	1.06	1.04
文学部	志願者	11,836	12,167	11,424	11,105	11,297
	合格者	4,393	4,734	4,074	3,161	2,751
	入学者(A)	1,172	1,217	1,017	970	864
	入学定員(B)	1,105	1,105	905	980	980
	A/B	1.06	1.10	1.12	0.98	0.88
理工学部	志願者	19,160	17,638	18,381	18,887	17,405
	合格者	7,037	7,232	7,849	6,641	6,201
	入学者(A)	936	945	1,029	924	832
	入学定員(B)	872	872	872	959	959
	A/B	1.07	1.08	1.18	0.96	0.86
国際関係学部	志願者	2,867	2,715	3,381	3,124	3,173
	合格者	945	981	990	1,030	660
	入学者(A)	295	335	318	359	261
	入学定員(B)	305	305	305	335	360
	A/B	0.96	1.09	1.04	1.07	0.72
政策科学部	志願者	3,600	3,691	4,786	3,863	5,318
	合格者	1,296	1,296	1,309	1,165	1,091
	入学者(A)	377	407	392	419	361
	入学定員(B)	360	360	360	410	410
	A/B	1.04	1.13	1.08	1.02	0.88
情報理工学部	志願者	5,308	5,201	5,049	4,981	5,714
	合格者	1,951	2,009	2,031	1,944	1,630
	入学者(A)	458	455	477	513	410
	入学定員(B)	440	440	440	475	475
	A/B	1.04	1.03	1.08	1.08	0.86
映像学部	志願者	1,459	1,611	1,814	1,697	2,091
	合格者	419	397	351	372	392
	入学者(A)	164	176	151	160	168
	入学定員(B)	150	150	150	160	160
	A/B	1.09	1.17	1.00	1.00	1.05
薬学部	志願者	2,191	2,151	2,268	2,316	2,389
	合格者	653	880	971	1,010	678
	入学者(A)	99	149	163	197	141
	入学定員(B)	100	160	160	160	160
	A/B	0.99	0.93	1.01	1.23	0.88
生命科学部	志願者	7,243	6,701	6,035	6,415	6,354
	合格者	2,497	2,485	2,776	2,702	2,729
	入学者(A)	311	272	296	340	306
	入学定員(B)	280	280	280	325	325
	A/B	1.11	0.97	1.05	1.04	0.94
スポーツ健康科学部	志願者	2,568	2,561	2,541	2,495	2,517
	合格者	710	637	629	617	631
	入学者(A)	236	237	246	241	231
	入学定員(B)	220	220	220	235	235
	A/B	1.07	1.07	1.11	1.02	0.98
総合心理学部	志願者			5,048	3,606	3,780
	合格者			1,035	817	774
	入学者(A)			318	300	302
	入学定員(B)			280	280	280
	A/B			1.13	1.07	1.07
食マネジメント学部	志願者					3461
	合格者					920
	入学者(A)					355
	入学定員(B)					320
	A/B					1.10
大学合計	志願者	90,298	91,490	98,884	100,527	103,065
	合格者	33,240	33,780	34,927	31,194	28,008
	入学者(A)	7,759	7,628	7,883	7,867	7,146
	入学定員(B)	7,017	7,077	7,157	7,629	7,849
	A/B	1.10	1.07	1.10	1.03	0.91

【資料2】

カリキュラムマップ

科目群	科目名	単位数	必修	目標1. 【知識・理解】	目標2. 【思考・判断】	目標3. 【関心・意欲・態度】	目標4. 【技能・表現】
Essentials of Global Liberal Arts	Introduction of Global Liberal Arts I	4	○	○	◎	◎	○
	Introduction to Global Liberal Arts II	4	○	○	◎	◎	○
	Philosophy Basics	4		○			
	Science Basics	4		○			
	Statistics	4	○				◎
	Research Design and Research Method	4	○				◎
	Algorithm and Programming	4					○
	Global Conflicts: An Introduction	4		○			
	Globalization and International Relations: An Introduction	4		○			
	Introduction to Asian Studies	4		○			
Cosmopolitan Studies	Cultural Studies	4	○	◎	○		
	Postcolonial Studies	4		◎	○		
	Critical Area Studies	4		○	○		
	Media Studies	4		○	○		
	Theory and Practice of Fieldwork	2		○		○	○
	Fieldwork on Media Studies	2		○	○	○	○
	History of Arts	4		○			
	Arts in Society	4		○			
	Special Lecture on Cosmopolitan Studies I	2		○		○	
	Special Lecture on Cosmopolitan Studies II	2		○		○	
	Asia and the World in Historical Perspective	4		○			
	Regional Diversity in Cultural Perspective	4		○			
Civilization Studies	Civilizations in Global History	4	○	◎	○		
	Sociological Theories: Classical and Contemporary	4		◎	○		
	Macrohistory and Metahistory	4		○	○		
	History of Modern World	4		○	○		
	Evolution of Governance	4		○	○		
	Institutionalism in Social Studies	4		○	○		
	Evolution of Market Economy	4		○	○		
	Special Lecture on Civilization Studies I	2		○		○	
	Special Lecture on Civilization Studies II	2		○		○	
	Comparative Politics in Asia	4		○			
	International Relations in the Asia-Pacific	4		○			
	War and Peace in the Globalizing World	4		○			
Innovation Studies	Knowledge and Innovation	4	○	◎	○	○	
	Applied Research Method for Social Science	4			○		○
	Social Impacts of Brain Science	4		○			
	Human Intelligence	4		○			
	Design and Society	4		○			
	Design Practice	4		○		○	○
	Social Change with AI	4		○			
	Special Lecture on Innovation Studies I	2		○		○	
	Special Lecture on Innovation Studies II	2		○		○	
	Internship I	1			○	○	
	Internship II	2			○	○	
	Human Security in Developing Societies	4		○			
Social and Technological Innovation	4		○	○			
Leadership in Global Perspective	4		○	○			
Japanese Studies Cluster	Contemporary Japan	4		○			
	Modern History of Japan	4		○			
	Japan in Global History	4		○			
	Japanese Philosophy	4		○			
	Politics and Foreign Relations of Japan	4		○			
	Japanese Language and Culture I	4		○			○
	Japanese Language and Culture II	4		○			○
Languages	Academic English	4					○
	Japanese Language I-IV	2					○
Capstone Studies	Research Seminar I	4	○		◎	○	◎
	Research Seminar II	4	○		◎	○	◎
	Thesis	4	○		◎	○	◎
	Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization	4			○	○	
	Capstone Studies in Geohistorical Perspective to Globalization	4			○	○	
	Capstone Studies in Development and Social Change	4			○	○	
	Capstone Studies in Governance Studies	4			○	○	

※目標1. ~ 4. は、ディプロマ・ポリシーに定める、卒業時に学生が身につけるべき能力に相当。

【資料3】

履修モデル① 多様性への理解にもとづき、技術を用いた社会的イノベーションを創出する。

	全開講 単位数	卒業 要件	モデル 修得 単位数	1年次 (平成31年度)	修得 単位数	2年次 (平成32年度)	修得 単位数	3年次 (平成33年度)	修得 単位数	4年次 (平成34年度)	修得 単位数
Essentials of Global Liberal Arts	63	32以上	32	Introduction to Global Liberal Arts I	4	Global Conflicts: An Introduction	4				
				Introduction to Global Liberal Arts II	4	Globalization and International Relations: An Introduction	4				
				Philosophy Basics	4	Introduction to Asian Studies	4				
				Statistics	4						
				Research Design and Research Method	4						
Cosmopolitan Studies	55	12以上	16	Cultural Studies	4	Theory and Practice of Fieldwork	2	Asia and the World in Historical Perspective	4		
						Fieldwork on Media Studies	2	Regional Diversity in Cultural Perspective	4		
Civilization Studies	52	12以上	20	Civilizations in Global History	4	Sociological Theories: Classics and Contemporary	4	Comparative Politics in Asia	4		
								International Relations in the Asia-Pacific	4		
								War and Peace in the Globalizing World	4		
Innovation Studies	64	12以上	20	Knowledge and Innovation	4			Human Security in Developing Societies	4	Social and Technological Innovation	4
								Social and Technological Innovation	4		
								Leadership in Global Perspective	4		
Japanese Studies Cluster	28	4以上	4			Japan in Global History	4				
Languages	51		4			Academic English	4				
Capstone Studies	28	12以上	28							Research Seminar I	4
										Research Seminar II	4
										Thesis	4
										Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization	4
										Capstone Studies in Geohistorical Perspective to Globalization	4
										Capstone Studies in Development and Social Change	4
										Capstone Studies in Governance Studies	4
合計	341	124以上	124		32		28		32		32

【資料3】

履修モデル② 語学を含めた日本への深い理解を生かして、社会実装を実現する。

	全開講 単位数	卒業 要件	モデル 修得 単位数	1年次 (平成31年度)	修得 単位数	2年次 (平成32年度)	修得 単位数	3年次 (平成33年度)	修得 単位数	4年次 (平成34年度)	修得 単位数
Essentials of Global Liberal Arts	63	32以上	32	Introduction to Global Liberal Arts I	4	Global Conflicts: An Introduction	4				
				Introduction to Global Liberal Arts II	4	Globalization and International Relations: An Introduction	4				
				Statistics	4	Introduction to Asian Studies	4				
				Research Design and Research Method	4	Algorithm and Programming	4				
Cosmopolitan Studies	55	12以上	14	Cultural Studies	4	Special Lecture on Cosmopolitan Studies I	2	Asia and the World in Historical Perspective	4		
								Regional Diversity in Cultural Perspective	4		
Civilization Studies	52	12以上	16	Civilizations in Global History	4	Sociological Theories: Classics and Contemporary	4	Comparative Politics in Asia	4		
								International Relations in the Asia-Pacific	4		
Innovation Studies	64	12以上	14	Knowledge and Innovation	4	Special Lecture on Innovation Studies I	2	Human Security in Developing Societies	4	Design Practice	4
Japanese Studies Cluster	28	4以上	4					Politics and Foreign Relations Japan	4		
Languages	51		16	Japanese Language I	2	Japanese Language III	2	Japanese Language and Culture I	4		
				Japanese Language II	2	Japanese Language IV	2	Japanese Language and Culture II	4		
Capstone Studies	28	12以上	28							Research Seminar I	4
										Research Seminar II	4
										Thesis	4
										Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization	4
										Capstone Studies in Geohistorical Perspective to Globalization	4
										Capstone Studies in Development and Social Change	4
										Capstone Studies in Governance Studies	4
合計	341	124以上	124		32		28		32		32

○大学教員定年規則

昭和34年2月27日

規程第62号

第1条 大学教員の定年は、教授については満65歳とする。教授以外の教員については満60歳とする。

第2条 大学教員が定年に達したときは、その学年末に退職するものとする。

第3条 前2条にかかわらず、総長（学長）および副総長（副学長）の職にある者は、その在任中、教授に任用する。

第4条 この規程の改廃は、各教授会、大学協議会、常任理事会の議を経て理事会が行う。

附 則

この規則は、昭和34年3月1日から施行する。

附 則（1985年4月26日付第3条の改正並びに第4条及び附則第1項から第5項までの削除）

1 第3条による任用は、該当の学部教授会及び大学協議会の議を経て行なうものとする。

2 この規則は、1985年4月1日から適用する。

附 則（2000年3月8日副総長（副学長）職追加に伴う改正）

この規則は、2000年4月1日から施行する。

附 則（2004年3月26日改廃規定新設にともなう一部改正）

この規則は、2004年3月26日から施行する。

附 則（2008年7月11日総合理工学院設置に伴う一部改正）

この規程は、2008年7月11日から施行し、2008年4月1日から適用する。

	月	火	水	木	金
春学期 1時限	1年次				
	2年次	History of Arts	Theory and Practice of Fieldwork	History of Arts	Japanese Language I Japanese Language II Japanese Language III Japanese Language IV
	3年次				Japanese Language and Culture I Japanese Language and Culture II
	4年次				
2時限	1年次	Research Design and Research Method		Research Design and Research Method	Philosophy Basics
	2年次	Introduction to Asian Studies Design and Society		Introduction to Asian Studies Design and Society	Academic English
	3年次	Comparative Politics in Asia		Comparative Politics in Asia	
	4年次				
3時限	1年次	Algorithm and Programming	Special Lecture on Civilization Studies II	Algorithm and Programming	Introduction to Global Liberal Arts I
	2年次	Critical Area Studies	Critical Area Studies	Modern History of Japan	Japanese Philosophy Globalization and International Relations: An Introduction
	3年次	Asia and the World in Historical Perspective		Asia and the World in Historical Perspective	Human Security in Developing Societies
	4年次				
4時限	1年次	Knowledge and Innovation		Knowledge and Innovation	
	2年次	History of Modern World Social Impacts of Brain Science		History of Modern World Social Impacts of Brain Science	Institutionalism in Social Studies
	3年次				Leadership in Global Perspective
	4年次				Capstone Studies in Geohistorical Perspective to Globalization
5時限	1年次				
	2年次	Applied Research Method for Social Sciences		Applied Research Method for Social Sciences	Sociological Theories: Classics and Contemporary
	3年次				War and Peace in the Globalizing World
	4年次	Research Seminar I Research Seminar II		Research Seminar I Research Seminar II	

※以上の内容はシミュレーションのため、実際の時間割は変更する可能性がある。

秋学期 1時限	月	火	水	木	金
	Evolution of Governance	Japanese Language I Japanese Language II Japanese Language III Japanese Language IV		Evolution of Governance	Japanese Language I Japanese Language II Japanese Language III Japanese Language IV
		Japanese Language and Culture I Japanese Language and Culture II			Japanese Language and Culture I Japanese Language and Culture II
2時限	Civilizations in Global History	Science Basics	Cultural Studies	Civilizations in Global History	Cultural Studies
	Human Intelligence	Contemporary Japan	Special Lecture on Cosmopolitan Studies II	Human Intelligence	Contemporary Japan
	Postcolonial Studies			Postcolonial Studies	
	Regional Diversity in Cultural Perspective			Regional Diversity in Cultural Perspective	
	Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization			Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization	
3時限		Introduction to Global Liberal Arts II	Special Lecture on Civilization Studies I	Science Basics	Introduction to Global Liberal Arts II
	Global Conflicts: An Introduction	Evolution of Market Economy	Special Lecture on Innovation Studies II	Global Conflicts: An Introduction	Evolution of Market Economy
	Japan in Global History			Japan in Global History	
	International Relations in the Asia-Pacific			International Relations in the Asia-Pacific	
	Capstone Studies in Governance			Capstone Studies in Governance	
4時限	Statistics		Statistics		
	Design Practice	Media Studies Arts in Society		Design Practice	Media Studies Arts in Society
	Social and Technological Innovation			Social and Technological Innovation	
5時限					
		Macrohistory and Metahistory Social Change with AI			Macrohistory and Metahistory Social Change with AI
		Politics and Foreign Relations of Japan			Politics and Foreign Relations of Japan
	Research Seminar I Research Seminar II	Capstone Studies in Development and Social Change		Research Seminar I Research Seminar II	Capstone Studies in Development and Social Change

※以上の内容はシミュレーションのため、実際の時間割は変更する可能性がある。